

写真で語る 日本古流のあゆみ

「華道たるや枝の一片を挿して以て誇りと為す可べきものにあらず」日本古流の華道之大意のひとつです。日本古流は1900年の創流以来、草木自然の理を学び華道の本領を追及しつづけてきました。だからこそ、その作品には常に新しい発見と感動があります。西暦2000年、日本古流は創流100周年を迎えます。そして、この年月の間に絶えず変化してきました。ここではそのあゆみの一部を写真を中心にご紹介いたします。

1900

明治時代に入ると、欧米文化を取り入れようとする文明開化の風潮が高まり、これまでの伝統的な物事を軽視する傾向が強くなりました。いけばなもこの影響を受けて、華道界全体が衰退してしまいました。そのような世相の中で、一世家元角田一忠は確固たる意志をもって華道の研鑽に努め、1900年（明治33年）に当初「甲新山古流」と呼称して、本流を創流したのです。

一世家元は本名を忠三郎といい、松梅齋楽華庵と号しました。1884年（明治17年）群馬県で誕生しましたが、生家は農業のかたわら蚕糸機業を営んでいました。一世家元の祖父、角田万作翁は1875年（明治8年）から1903年（明治36年）までを能吏として勤め上げたといわれています。政治と科学を趣味としたといわれますが、特に科学的な研究には目を見張るものがあり、当時すでに、いけばなの美の神髄を数学的、幾何学的に追求し、その文献が現在も秘録として残されています。その万作翁の計らいにより、一世家元は早くも9歳にして、正風遠州の松雲齋一里先生の門に入り、華道を学びはじめました。万作翁は、その後も陰に陽に一世家元を支えています。日本古流胎動期の功労者として大きな存在であったといえましょう。一世家元は松雲齋門下で7年間学びましたが、一里先生が物故されると、直ちに青山御流の晴月園先生に就いて、4年間に及ぶ研鑽をつみました。祖父の薫陶を受け、弱冠で華道の奥義に達するという才能に恵まれていたといえましょう。その後、転々流遊の旅を続けて、静岡にいたり石州流家元の吸露軒宗匠に就きました。その際手にした甲斐古流の山口素堂先生の遺墨から大いに悟ることがあり、その遺蹟を求めるため、1897年（明治30年）甲府に赴き表千家の大家の薦めで「甲新山古流」として甲斐古流の再興を図るに至りました。



「善しとほめ、悪しといさめて難波江の 学びの海に問い交わすため」という心境を根本理念として門下を指導する一方、さらなる研鑽をつんで草木自然の理を究めました。1914年（大正3年）東京にて甲新山古流から現在の「日本古流」へと改称しました。

「いけばなは偽りをなきを道として 己が心を映すものなり」

一世家元が永年の華道修養の末に到達した究極の境地を示すものといえましょう。

敬風社「日本古流いけばな」



一世家元 林鐘梅

一世家元 杜若





1930年（昭和5年）5月 一門の幹部

初代家元の最も活動された58才の時、丸ビルで花展が開催された。写真はその記念写真。向って右端が二世家元、後列には小堀一効、塚原一兆家元顧問、3列目左から2人目に三世家元の若き日があります。



一世家元 棕栢

1938



一世家元は、創流以来35年の長きにわたって門下を慈しみ、導いてきましたが、1938年（昭和13年）3月、志し半ばにして逝去いたしました。その遺業を引き継いだのが長男の二世角田一忠です。二世家元は本名を實といい、一世家元の厳しい教育を受けました。家元襲名時には34歳の壮年期にありましたが、折しも、世情は第二次大戦直前の時期であり、間もなく開戦となりました。華道活動を中断して戦災難民の救済に全力を傾けました。終戦後は東京都中央生活相談所の主幹として、戦災で苦しむ都民のために尽くしたのです。

その後、世情も落ち着きを取り戻した1948年（昭和23年）家元の座に戻り華道活動を再開しました。日本古流一流のみの隆盛にこだわらず、広く華道界全般の繁栄のために活動のスケールを広げていきました。1950年（昭和25年）東京都茶華道連盟の結成に参画したことを皮切りに、1958年（昭和33年）超流派的な親睦団体の「いけばな協会」の創設や、健康保険組合の設立に力を尽くし、さらに、1966年（昭和41年）発足の全国的な華道作家組織「日本いけばな芸術協会」の設立にも多大な貢献をしました。その間、流展はもとより、各種団体主催の華展にも精力的に出瓶し、日本古流の基礎を確立しました。これらの業績が評価され、1980年（昭和55年）に勳五等瑞宝章を授与されました。

敬風社「日本古流いけばな」

1952



1952年（昭和27年）
全日本いけばな作家百人展（産経会館）
鉄加工材、青竹、梅擬、柺木、伊吹



躑躅



1955年（昭和30年）第118回春季授与式（文京公会堂）



1957年（昭和32年）10月
第4回全日本いけばな作家百人展
鉄加工材、木従、七竈、朴



1959年（昭和34）
いけばな美術展（渋谷 東横）
黒着色カラタチ、大谷石、黄着色フラスコ



1960年（昭和35年）
いけばな美術展（渋谷 東横）
藤蔓、針金

1958

1958年（昭和33年）いけばな協会設立 同協会常任理事就任



1964年（昭和39年）4月
第4回芸術能談会にいけばな界を代表して二世家元は首相官邸
で親しく故池田首相と握手を交わした。

1965年（昭和40年）
第1回日本いけばな展（池袋 西武百貨店）
紅葉七竈、蔓梅擬、郁子



1964年（昭和39年）
オリンピック記念日比谷公園いけばな展
鉄加工材、紅葉七竈、樅、朴



1965年（昭和40年）
世界いけばな大会（北の丸 科学技術会館）
羅漢槿、板谷楓、紅霧島躑躅、紅楓、洗根



都知事主催のレセプションでの二世家元、三世家元ご夫妻

1966年（昭和41年）1月
第6回いけばな協会展（新宿 京王百貨店）
雪柳、黄金柗木



1967

1966年（昭和41年）
日本いけばな芸術協会設立 同協会理事就任



1967年（昭和42年）1月
第10回記念 現代いけばな代表作家展
「国土（くにっさ）」
苔松、椿（白、赤）、鉄加工材、アスパラ、カラー、蘭



1967年（昭和42年）5月
国風会いけばな展（新宿 三越）
落葉松（唐松） 石楠花



1966年（昭和41年）10月
第9回礼宮様誕生慶祝 現代いけばな代表作家展（新宿 伊勢丹）
貝塚伊吹、椿、葉牡丹、銀染柳（鉄花器）

1967年（昭和42年）
昇格試験会場の二世家元





1967年（昭和42年）5月
（財）日本いけばな芸術協会創立記念展
羅漢楨、棕枙、躑躅、朴



1967年（昭和42年）
昇格試験の様子



1968年（昭和43年）4月
第7回いけばな協会展
（日本橋 東急百貨店）
小手毬、黒着色三椏、ストレリチア



1968年（昭和43年）5月
（財）日本いけばな芸術協会全国大会（大阪 高島屋）
五色着色晒幕木草、伊吹、洗根、花衣桁

1969年（昭和44年）
第8回いけばな協会展（日本橋 東急百貨店）
枯葦、杜若、躑躅、布袋葵



1970



1970年（昭和45年）10月
東京会研究会（虎ノ門教育会館）
盛んな格花・自由花研究会



1970年（昭和45年）5月
第10回いけばな協会展（日本橋 東急百貨店）
枇杷、黄金柱木



1970年（昭和45年）10月
第5回いけばな日本百傑展（池袋 西武百貨店）
蔓梅擬、紅葉檜、朴



東京会研究会（虎ノ門教育会館）で説明する二世家元
左側は故家元顧問・佐藤一華先生



1971年（昭和46年）4月
東京会研究会にて講義をする二世家元

1971



師範者の看板を書く二世家元（自宅にて）

1971年（昭和46年）10月
いけばな芸術展（日本橋 高島屋）
五葉松生花



1974

1974年（昭和49年）9月
日本いけばな芸術中部展（名古屋 名鉄百貨店）
梅擬、紅葉万作、鳥兜



1975年（昭和50年）10月
主婦の友社にて

1976年（昭和51年）4月
第15回いけばな協会展（日本橋 東急百貨店）
糸檜葉、大紫



1977年（昭和52年）6月
第16回いけばな協会展（日本橋 東急百貨店）
花菖蒲、縹太蘭、葦



1977年（昭和52年）9月
第10回いけばな日本百傑展（池袋 西武美術館）
七竈、蔓梅擬

1978

1978年（昭和53年）7月
いけばな芸術協会「懇親会パーティー」
高松宮殿下、家元、小原豊雲理事長、
細川護貞会長、麻生和子顧問



1978年（昭和53年）4月
第17回創立20周年記念いけばな協会展（日本橋 東急百貨店）
柗南天



1979年（昭和54年）10月
文京区民文化祭華道展（文京区民センター）
五色着色晒幕草、雲竜柳



1979年（昭和54年）3月
本部春季修業証書授与式（第200回本部授与式）



1979年（昭和54年）10月28日
山梨会秋季修業証書授与式
（第189回山梨会授与式、山梨県製糸会館）



1979年（昭和54年）8月12日
静岡支部夏季修業証書授与式
（第37回静岡支部授与式、静岡産業会館）

1980



1980年(昭和55年)1月20日
創流80周年記念式典(東京會館 ローズルーム、600名)



1980年(昭和55年)5月
第19回いけばな協会展(日本橋 東急百貨店)
赤木瓜、板屋楓、小手毯



1980年(昭和55年)
創流80周年記念 第10回夏季講座
岡本太郎氏と会話する二世家元

岡本太郎氏を囲みトークショー



1980年(昭和55年)8月30日
國學院大学華道學術講座開講30年(明治神宮)
華道學術講座は昭和25年より年2回の講座がもたれた



1980



1980年(昭和55年)8月
山梨会野外研究会(大月橋倉紅泉)
紫苑の生花実習をする二世家元



1980年(昭和55年)7月26~27日
静岡支部 創流80周年記念
家元叙勲祝賀いけばな展(静岡産業会館展示場)
記念式典



1980年(昭和55年)5月15日
二世家元 勲五等瑞宝章叙勲



1980年(昭和55年)10月
(財)日本いけばな芸術北陸、信越展(富山県民会館)
梅擬、紅葉満天星躑躅、白玉椿

1981



1980年（昭和55年）11月
第13回いけばな日本百傑展（池袋 西武美術館）
ピラカンサ、白玉椿



1981年（昭和56年）9月
生花展1981（銀座 松屋）
満天星躑躅

1981年（昭和56年）1月18日
東京会新年会（ホテルオークラ）



1981年（昭和56年）1月25日
山梨会新年会
（岡島ローヤル会館、100名）



1981年（昭和56年）1月6日
静岡支部新年会（産業会館ホール、100名）
二世家元を囲んで

1981年（昭和56年）11月
第14回いけばな日本百傑展（池袋 西武美術館）
晒枝垂れ桑、紅葉満天星、槇柏



1982



1982年（昭和57年）11月
（財）日本いけばな芸術展創立15周年記念
板屋楓、紅楓



1982年（昭和57年）6月
第3回日本古流いけばな展（新宿 野村ホール）
落葉松、板屋楓、五月



1982年（昭和57年）1月17日
東京会新年会（東京會館 ローズルーム、350名）

1983



1983年（昭和58年）4月
第3回町田、相模地区いけばな協会展（町田 東急百貨店）
連翹、躑躅、青木、棕櫚



1983年（昭和58年）6月
第4回日本古流いけばな展（新宿 野村ホール）
馬酔木、板屋楓、紫陽花



1984年(昭和59年)4月
第23回いけばな協会展
(日本橋 東急百貨店)
白楓、板屋楓



1984年(昭和59年)6月
第15回いけばな日本百傑展
(池袋 西武美術館)
斑入青木、五月、板屋楓



1984年(昭和59年)6月
第5回日本古流いけばな展
(新宿 野村ホール)
ドラセナワーネツキ、ストレリチヤ



1984年(昭和59年)10月
第17回日本いけばな芸術展
(日本橋 高島屋)
ドラセナワ、紅葉満天星躑躅
二世家元最後の作品

1985



1985年(昭和60年)2月2日
二世家元葬儀(新宿 緑雲寺、享年81歳)

二世家元は、華道界の重鎮としてさらなる活躍を期待されていましたが、1985年(昭和60年)雄図半ばで逝去いたしました。その後継として、家元夫人で副家元であった角田一苔が三世家元角田一忠を襲名し、今日に至っています。東京都新宿区に生まれた現家元は、幼少の頃よりいけばなに興味をもち、1922年(大正11年)に一世家元に師事、1929年(昭和4年)には師範の許状を授けられました。1931年(昭和6年)二世家元に嫁いで以来内助の功を尽くし、1962年(昭和37年)副家元に就任しました。

現在は、一世、二世両家元の遺訓を伝えながら、副家元をはじめ、一門幹部の補佐を得て、流勢のよりいっそうの発展に努めています。

敬風社「日本古流いけばな」



1990



1985年（昭和60年）5月
山梨県昇格試験（山梨農協会館）
ハラン五行活けを説明する三世家元、
天野一教会長



1990年（平成2年）1月28日
創流90周年記念式典（ホテルニューオータニ）



1988年（昭和63年）11月
秋のいけばな秀作展（日本橋 東急百貨店）
柿、紅葉七竈、龍胆

1995



1995年（平成7年）1月22日
創流95周年記念式典と感謝の集い（赤坂プリンスホテル）



1995年（平成7年）11月1日
日本古流ホームページ開設
<http://www.nihonkoryu.org/>

1998



1998年（平成10年）6月
三世家元 いけばな褒賞杯を受賞
高松宮より授与（高松宮邸）

2000

2000年（平成12年）
日本古流 創流100周年